

未来に伝えたい

先人の挑戦と創造

米沢遺産



▲栗子隧道の米沢坑口 (初代 (右) と 2代目 (左) が並ぶ)

第2回 選奨土木遺産

万世大路

人と地域、そして未来をつなぐ道

万世大路は、米沢～福島間を結ぶ重要な幹線道路です。初代は、明治初期の統一山形県初代県令三島通庸と統一福島県初代県令山吉盛典によつて整備されました。明治9年、三島と山吉は、この区間に荷馬車道を新設することで両県の交流が促進・発展するとし、当時としては極めて大規模な道路工事を両県共同で実施しました。

明治14年に完成した道路は全長48.3kmに及び、栗子隧道など5本のトンネルと相生橋など30数か所の橋梁が建設されました。このうち県境の栗子隧道は、876mという当時日本最長のトンネルでした。当初は鑿と金槌による手掘りであったため工事は遅々として進みませんでしたが、明治11年に当時世界に3台しかなかった米国製の削岩機を導入することで作業効率が改善し、明治13年に貫通しました。明治14年10月3日、明治天皇を迎えて開通式が催され、翌年に明治天皇より「萬世大路」と命名されました。明治32年に米沢～福島間の鉄道が開通すると、初代の万世大路は寂れたこ

とから、昭和8年から自動車が通行できるようになります。昭和2年に完成した2代目の万世大路は、初代の栗子隧道が米沢側坑口から60mのところでカーブしていたため、まっすぐに新たなトンネルを掘りました。このため、米沢側には明治と昭和の坑口が2つ並んでいます。

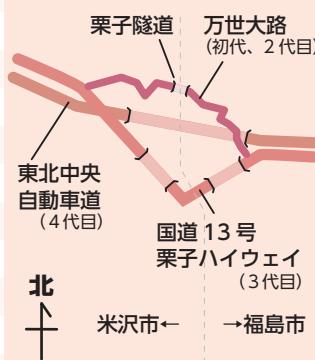
昭和30年代に入り増大する自動車交通に対応するため、西栗子トンネルと東栗子トンネルによるルートに変更されました。昭和41年に完成した3代目の万世大路は、現在の国道13号栗子ハイウェイです。

平成29年11月4日に開通した東北中央道は、万世大路の4代目となるもので、3代目の道路と共に現在の我々の生活を支えています。

万世大路を後世に伝えるために

万世大路は、山形県の近代化に大きく貢献しました。平成8年に文化庁選定「歴史の道百選」として「万世大路栗子峠越」が選定され、平成24年には土木学会選奨土木遺産に認定されました。さらに、令和2年には「未来に伝える山形の宝」に登録されました。万世地区の全戸と賛助会員で構成される「歴史の道土木遺産萬世大路保存会」では、先人たちの万世大路への思いを継承し、未来に伝える活動が精力的に行われています。

栗子隧道の米沢側坑口には、国道13号線の看板を目印に行くことができます(途中徒歩のみ)。



初代
明治14年に開通した万世大路の栗子隧道(延長876m)は、日本初の長大トンネルで、標高880mを通過していました。



3代目
ルートを見直し西栗子トンネル(2,675m)と東栗子トンネル(2,376m)による国道13号(栗子ハイウェイ)になりました。



2代目
昭和の時代に入り、車が通れる道に大改築され、昭和12年に完成(870m)。しかし、冬期の5か月間は交通不能でした。



4代目
3代目トンネルに比べ坑口標高を約190m下げるにより、「より信頼性の高い・雪に強い」道路になりました。

